放課後児童クラブ再編計画説明会　質疑応答集

【放課後児童クラブ関係】　※7/24～8/5 の「新たな学校づくり推進計画」保護者説明会での内容を含む

○利用に関する事項

質問等内容	回答
花輪小学校に統合後、尾去沢地区の児童はまちなか児童クラブを利用するのですか。	まちなか児童クラブと花輪児童クラブのどちらを利用するかは決定しておらず、施設状況や学校再編のスケジュールを踏まえながら今後決定していきます。
大湯小学校と十和田小学校が統合となると人数が増えると思いますが、十和田小学校の児童クラブをみんなが利用できるのですか。それとも別の場所の児童クラブの利用も出てくるのですか。	令和 8 年度の十和田児童クラブの登録人数は 130 人であり、統合後の令和 12 年度の登録人数の想定は 122 人と推計しており、現在の児童クラブの利用で問題ないと考えています。 （8 月に公表した素案では登録率の推計を見直しています。素案では、令和 12 年度の登録人数を 143 人と見込んでおり、十和田児童クラブで受け入れられるよう調整していきます）
児童クラブの登録児童数について、現在は学校から近いため登録していない家庭もいると思うが、統合して 1 校になっても利用率は変わらずに推移すると想定しているのですか。児童クラブ 1 か所で 300 人を受け入れ可能なのですか。	学校が近くにないことで児童クラブを利用する人が増えてくることも考えられますが、スポ少へ参加する児童の状況を精査しながら計画に反映させていきます。令和 19 年度の統合後の児童の人数を 381 人と推計しており、現状の利用率の 5～6 割で推移すると約 190 人～200 人弱程度と推計されます。それに加え、スポ少の動きがどうなっていくかなどを見ながら計画を精査する必要があり、統合前までに児童クラブに対する保護者のニーズを確認していきたいと考えています。 （8 月に公表した素案では登録率の推計を見直しています。素案では、令和 19 年度の児童数 381 人に対し、登録者数を 300 人と見込んでいます）

○送迎、安全対策に関する事項

質問等内容	回答
市内全小学校を統合後、夏休みなどの長期休暇中に児童クラブを利用する場合、スクールバスで送迎してもらえるでしょうか。	教育委員会が長期休暇中にスクールバスを運行することはありませんので、保護者による送迎が難しいという意見が寄せられた場合は、1 校集約前に健康福祉部でニーズを把握しながら対応を検討します。現在の児童クラブの登録率は

質問等内容	回答
	約半数ですが、スポーツ少年団などの活動状況によっても児童クラブの利用ニーズは変わると考えているため、状況を見極める時間をいただきたいと思います。
花輪さくら保育園を改修しても８年しか利用しない想定なのはもったいないと思います。また令和 19 年度以降はどうするのですか。	まちなか児童クラブ、花輪児童クラブは両方とも老朽化が進んでいるため、花輪さくら保育園を児童クラブに転用することとしました。小学校の１校集約後（令和 19 年度以降）の花輪さくら保育園については、現時点では具体的な活用方法は持ち合わせておりません。
学校外の児童クラブを減らす方針としていますが、花輪さくら保育園を児童クラブにした場合、何か移動中の安全対策はあるのですか。	現時点では具体的な移動支援策はありませんが、現在でもクマが出た際には、学校内で児童クラブを開設する体制は整えています。学校内に児童クラブを設置するのが理想ですが、花輪小学校については、新しい学校ができるまでは、この体制でご理解をいただきたいと考えています。
現在、柴平小学校の児童クラブは旧平元小学校内にありますが、学校を新設する場合は、校舎内に児童クラブをつくってほしい。クマの出没が多くなっている中で、授業が終わってから学校を出ずに児童クラブに行けるということはとても安心感があります。	より学校に近い場所での開設を目指しているところであり、統合校を建設する際は、学校内に児童クラブを設置できるように進めていきたいと考えています。令和 19 年度の統合前にも、柴平小学校で放課後児童クラブのスペースを確保できるようであれば、早めに校舎内に設置できるように進めたいと考えています。
安全の確保という割に小学校から離れたところへの児童クラブの設置、とにかく不透明すぎる説明と回答によく説明会できたなという感じでした。	学校集約までの間、引き続き校外設置となる放課後児童クラブ２か所については、ソフト面での安全確保をできるだけ工夫してまいります。
十和田児童クラブについて、学校内にあるが、老朽化や水害などについてなにか対策等考えていますか。	十和田小学校の水害対策については、学校再編の説明会でも質問がありましたが、学校では、気象情報の確認や避難できる体制づくり、場合によっては休講措置も検討することとしています。放課後児童クラブにおいても、学校と連携して、ハードではなく、ソフト面で対応していく予定です。